

生産中止品



LEG-101・102 シリーズ 地絡継電器

作成日
2003/06/20

本資料記載内容は、全て販売当時のものです。

資料 HP522



LEG-101

信頼度の高い集積回路(IC ソリッドステート)を使用した静止形なので、動作は確実で、高温でも誤動作など、不安定になる事はありません。性能は、JIS 規格又は JEM 規格に適合していますので、電圧、周波数、温度などによる誤差は、ほとんどありません。

ケースは、ABS 樹脂モールドですから、軽量で丈夫で、錆や腐蝕に対する心配がありません。

感度切替は、ピンジャック式で 4 点(0.1A,0.2A,0.4A,0.6A)としました。

プラグイン構造なので、いつでも安全に取り出して、調査が出来ます。

試験用押しボタン、復帰ボタン、動作表示等が、前面に出ていますので多回路に使用した場合でも、どの回路が動作したかどうか、すぐ判別出来ます。

継電器と ZCT は互換性がありますから、ZCT は当社製のどれと組合せても、感度誤差は規格内に入ります

機種、定格

項 目	高压用			低压用
露 出 形	LEG-101A	LEG-101B	LEG-101C	LEG-101L
埋 込 形	LEG-102A	LEG-102B	LEG-102C	LEG-102L
適 合 規 格	JIS C 4601 広温形			JEM1364 衝撃波不動作形
動 作 電 流 整 定 値	0.1A 0.2A 0.4A 0.6A			0.1A 0.2A 0.4A 0.6A 中感度形
	許容誤差 ± 10%			不動作電流値上記整定値の 50%
動 作 時 間	0.2 秒			0.3 秒時延形
周 波 数	50Hz, 60Hz 共用			
不動作時消費電力(P1,P2)	AC110V, 0.03A			
動作時消費電力(P1,P2)	AC110V, 0.1A			
接 点 構 成	2a	1a・1b	1C	2a
補助継電器接点容量	AC110V, 10A低抗負荷			
絶 縁 耐 力	AC2000V, (1 分間)			AC1500V, (1 分間)
制 御 電 源	AC110V			AC100V

LEG-101・A・B・C形 LEG-102・A・B・C形

高圧回路に使用する場合

LEG - 101 形 102 形は CF - 15 を使用する事により、従来までの 3 種類のトリップ方式が出来ます。CF - 15 については別途カタログを参照して下さい。

第 1 図は常時閉路式 OCR とトリップコイルを並用し常時は OCR にトリップコイルが接続されており、LEG の動作時のみ、このコイルがトリップ電源に接続されトリップ電流が流れて遮断します。

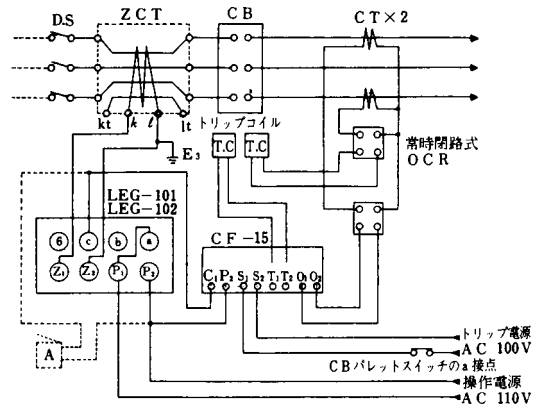
トリップ電源が、この CB のトリップによって止まらない場合 (例えば分岐高圧モーター用の CB) にはコイル焼損防止のため、このトリップ電流が止まる様に、必ず第 1 図のようにパレットスイッチなどの様な開放部をトリップ電源回路に入れて下さい。

第 2 図は低電圧継電器或は無電圧開放器と、並用する場合のトリップ回路です。LEG の b 接点 (c - b 間) を直列にこれらの継電器回路に入れて下さい。

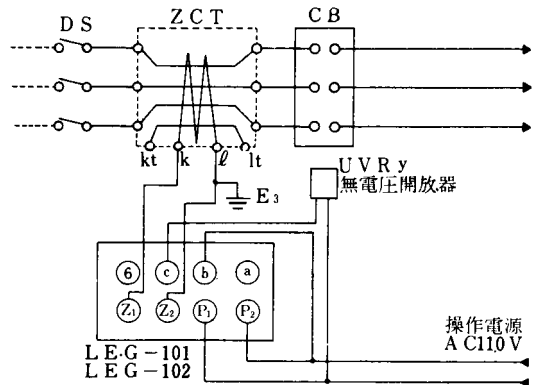
第 3 図は常時閉路式 OCR、又は加電圧開放器などと並用する場合で、a 接点 (c - a 間) を並列にします。地絡遮断つき OS などの時に多用されます。

第 4 図は 6600V / 3300V 絶縁変圧器回路に使用する場合で自家用需要家の受電端に 6600V / 3300V の絶縁変圧器を使用する場合の負荷回路の接地事故を検出するために地絡継電装置を設置する場合には対地容量が不足して感度が低下しますから第 4 図のように、約 $0.4\mu F \times 3$ の接地用コンデンサー (C) を零相変流器 (ZCT) の電源側に取り付けてください。この接地工事は第 1 種接地の施工をしてください。

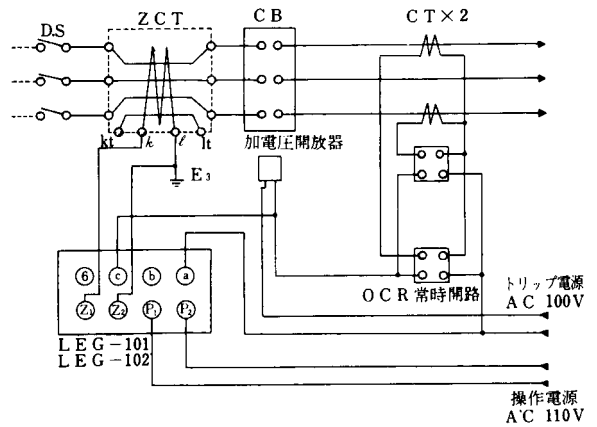
この場合 LEG の感度は 0.1A 又は 0.2A にしてください。又、1 台の継電装置で 6600V 側も保護する様な場合は第 4 図に示す様に ZCT1 と ZCT2 を並列に接続して下さい。



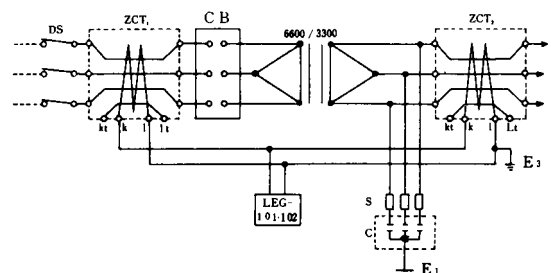
第 1 図過電流継電器のある場合



第 2 図低電圧引外し継電器を使用した場合



第 3 図加電圧引外し継電器を使用した場合



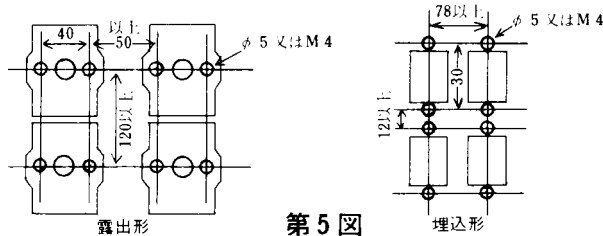
第 4 図絶縁変圧器回路に使用する場合

LEG-101L形 LEG-102L形

低圧回路に使用する場合

低圧回路で使用される本器の数が多くなると、外部配線の抵抗も無視できませんので、十分な太さの電線(1.6 mm²)を御使用下さい。

集合形漏電警報器として設計する場合は、第5図参照して下さい。

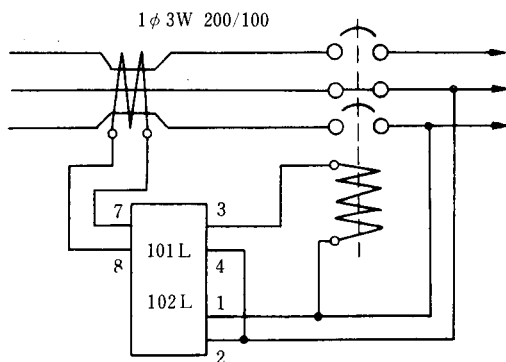
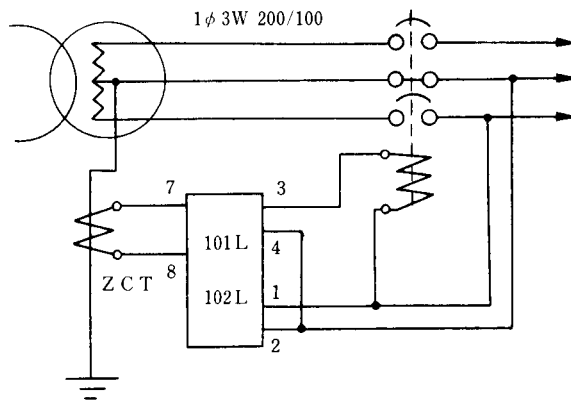


第5図

回路番号などを本器に記入するときは、銘板に鉛筆、ボールペンなどで書くことができます。

応用機種

JEM1364(漏電リレー)低感度形、高速形、時延形の規格相当品があります。



第6図 外部接続例

両機種共通

動作およびターゲット

正常な状態ではターゲットは赤色で表紙写真のようになっていますが、地絡事故があって整定値以上の電流が流れると、主継電器 Ry2 が動作に入りターゲットが突出して表示し、動作に入ります。

本器を復帰させるには、このターゲットを押し込んでください。

取り付けおよび試験方法

取り付けと結線には、専用端子台を御使用下さい。接続のさい外部接続図と照合して誤りのない様に注意して下さい。

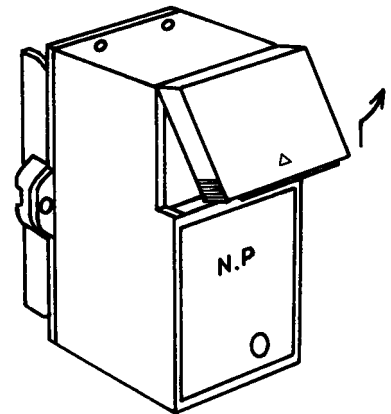
本器は常に良好な動作状態におくため毎月1回以上試験用押し釘を押して、動作試験を行って下さい。

精密感度試験は調整測定出来る低圧電流を kt - lt 端子に流して下さい。このため盤表面までこの回路を設けておくこと保守上好都合です。

専用端子台は端子番号が下側に来る様に取付けて下さい。

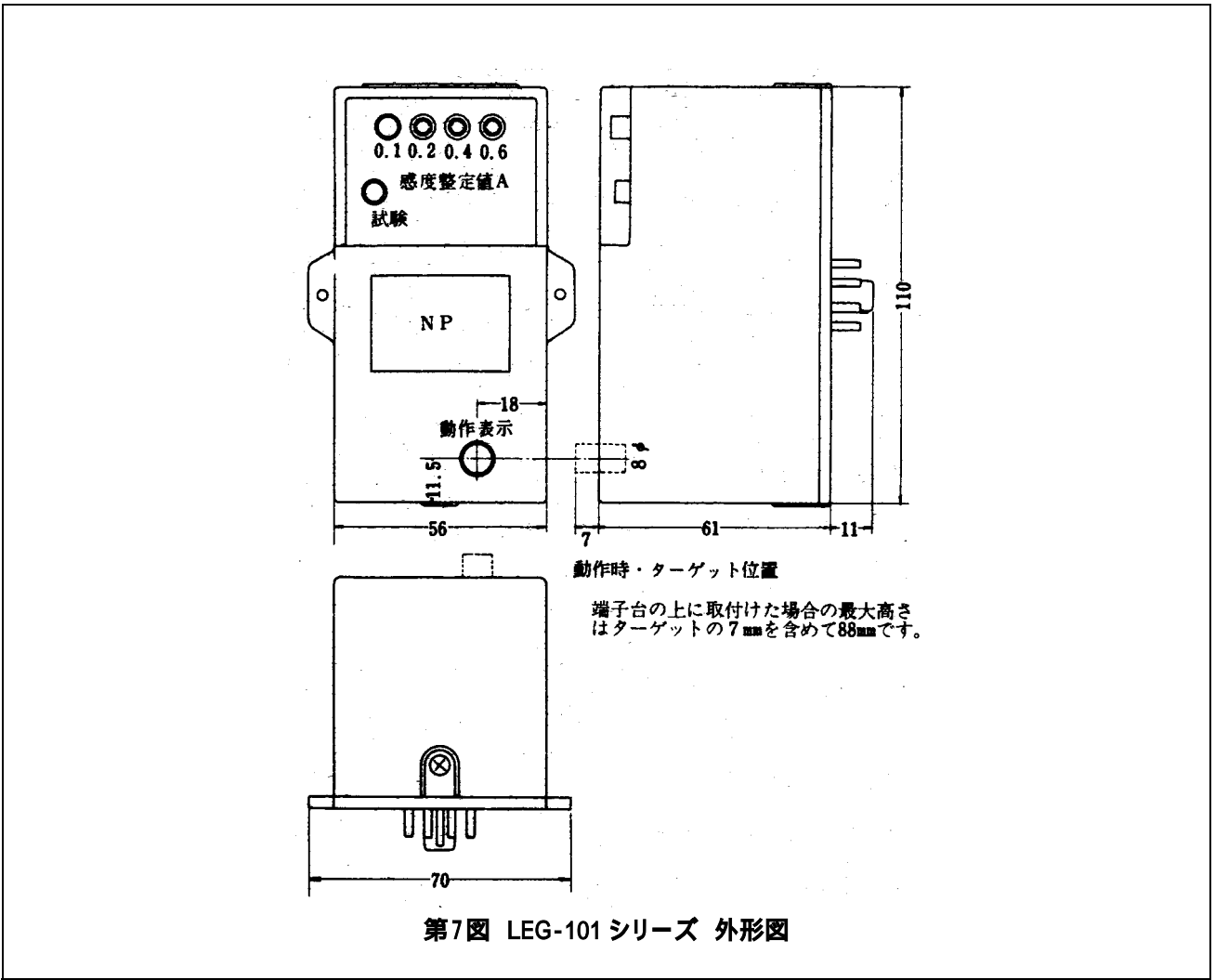
感度調整について

蓋の開け方、右の図のように透明な蓋を上にならずせながら下端の突起部をはずし手前に引っぱって下さい。この蓋はスライド式ではありませんから上にならずせただけでは破損します。

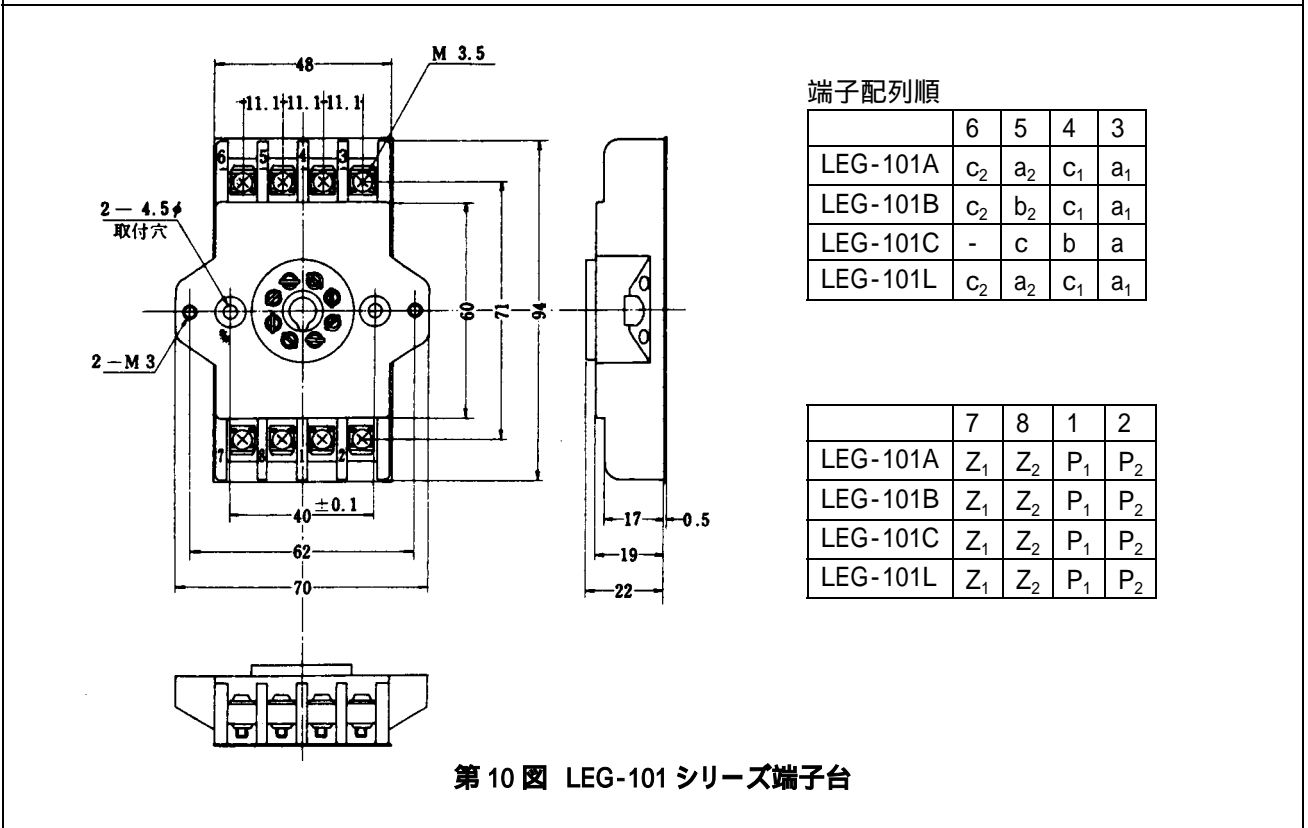


感度の切替、変更

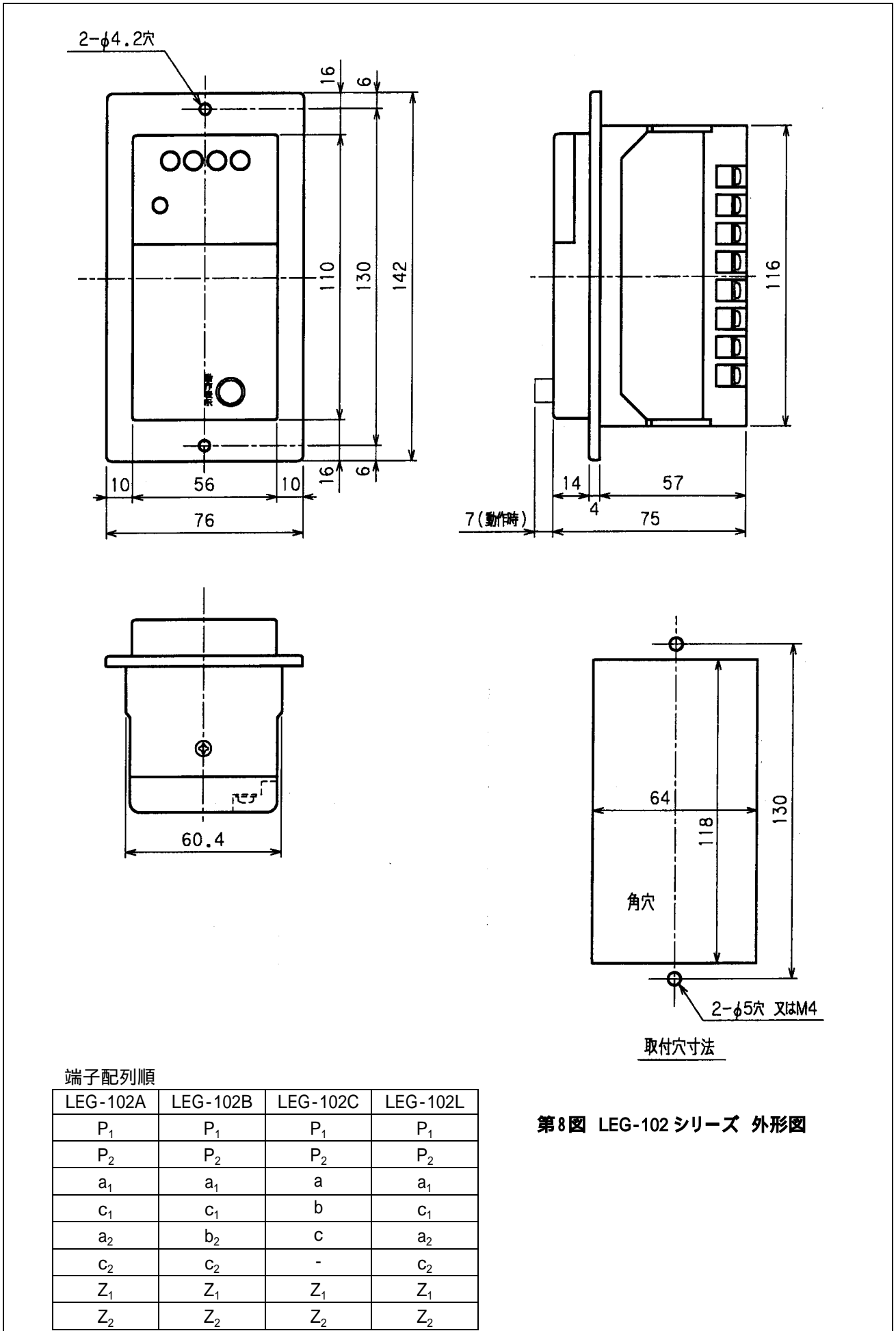
蓋を開けてから黄色のピンを抜き替えて下さい。ピンを抜いた状態でも最少タップ(0.1A)で作動します。

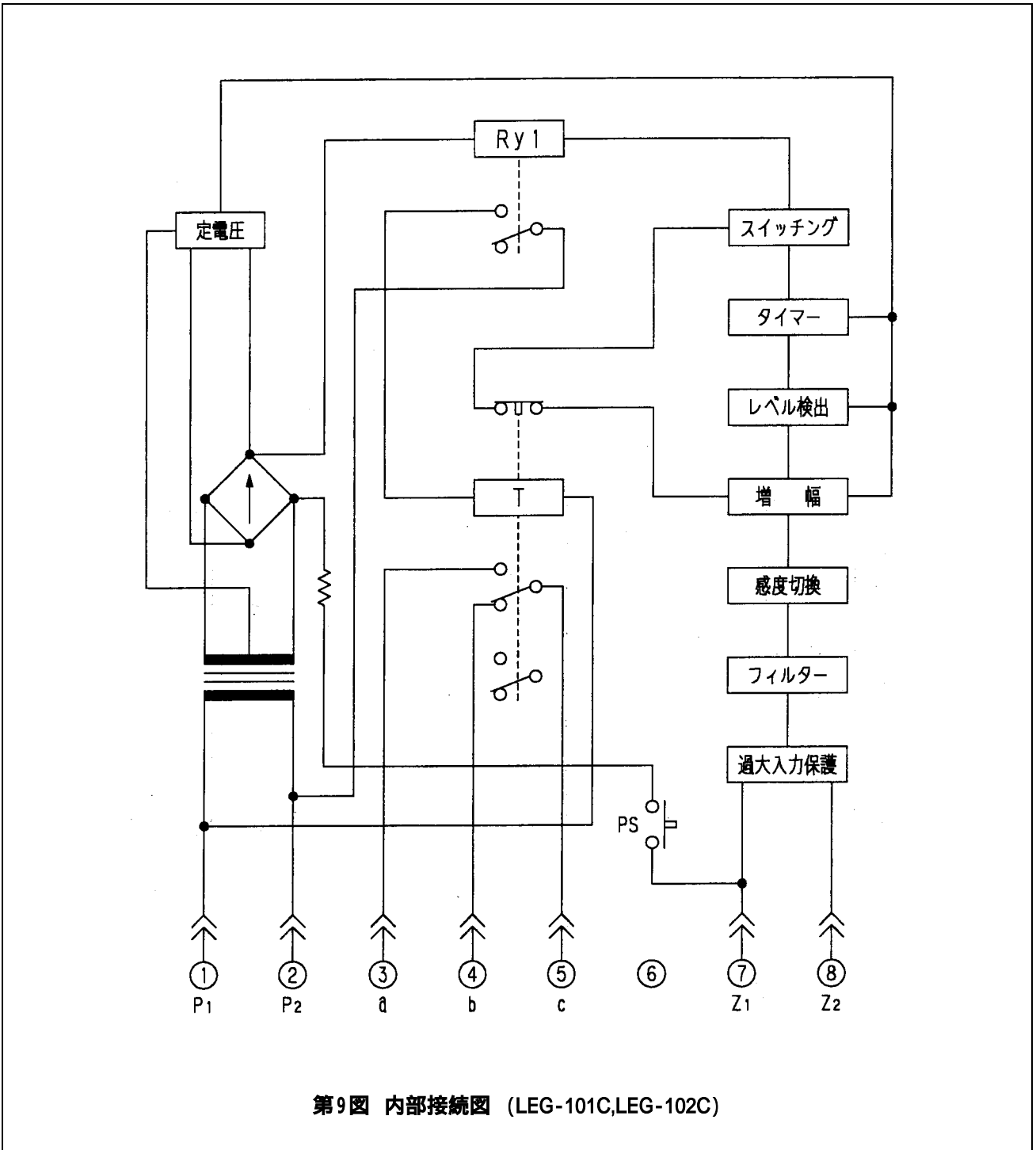


第7図 LEG-101シリーズ 外形図



第10図 LEG-101シリーズ端子台





第9図 内部接続図 (LEG-101C,LEG-102C)